鹽山五百六十町○中略　二百町　在紀伊國海部郡加太村

〔平家物語六〕ぎをん女御の事

有時白河院くまのへ御かうなる紀伊國いとかさかといふ所に、御こしかきすへさせ、しばらく御きうそく有けり、

〔源平盛衰記四十〕維盛入道熊野詣附熊野大峯事

此ヨリ熊野參詣ノ志アリトテ、○中略紀ノ國三藤ト云所ヘ出給ヒ、藤代王子ニ參リ、

〔續寶簡集五〕謹辭　相傳渡水田事

合壹段陸拾歩者字檀上

在紀伊國伊都郡高野山御領大谷村○中略

元久貳年乙丑八月廿六日　僧長圓花押

〔寶簡集三十〕粉河寺申、紀伊國丹生屋村與高野山領名手庄相論條々事、聖護院僧正御房御書副寺解

謹進上候、子細被載狀候、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

閏七月○寛元元年十七日　相模守平重時裏花押

進上　大夫僧都御房

〔續寶簡集四〕寄進　御影堂陁羅尼田事

合壹段者在紀伊國伊都郡山田村字田尻、定田五斗七升、○中略

永仁元年癸巳十一月日　大法師泰助花押

〔南遊紀行〕諸州めぐり四紀伊〕和歌山は淡島より三里あり、其間右の方の濱邊に松多し、此邊白浦なり、和歌山町の方へ行に、紀の川を舟にてわたる、是吉野川の下也、大河也、紀伊のみなと、云名所也、客船多し、和歌山の城は紀州君居給ふ、城下の境地ひろくゆたけし、和歌山と和歌浦の間の北の濱